

広報の戦略・事務効率化など論議

GKB48 九州にスポットあて広報セミナー

学校広報ソーシャルメディア活用勉強会（GKB48）では創立10周年記念として大学広報オンラインセミナーを開催している。地方大学の事例も聞きたいという参加者の希望により、第4回の7月9日は九州地方の大学にスポットを当てた。

第1部のプレゼンは、福岡工業大学入試広報部事務部長の山口芳弘氏、崇城大学入試広報部広報課長の今野京氏、日本文理大学学長室長・工学部教授の吉村充功氏が登壇。第2部のパネルディスカッションより第1回セミナーに登壇した別府大学広報室長補佐の石川万実氏にも加わった。

第1部では、(1)福岡工業大学による定量・定性

大学の広報上の長所・短所について各登壇者からコメントがあった。マーケットが小さく、学部も限られるために特色を出

しにくいことからくる募集の難しさは挙げられたものの、逆にターゲットを絞った広報をしやすい、高校や企業とも距離が近く、連携した広報活動ができるなどの前向きな発言もあった。また18歳人口が激減する2040年を見据え、厳しい財政のなかで、大学の規模

や教育システムの見直しや、地域との緊密な関係性構築などの事業計画に基づいた、広報戦略の検討に取り組む姿勢もうかがえた。

参加者アンケートでは、福岡工業大学や崇城大学での事例で、広報上、貢献した教職員を評価する仕組みづくりに関心が集まっていた。また広報スキル・予算に課題を持つ大学は多いため

か、崇城大学の効率化の取組を取り入れたいとする感想も寄せられた。今回は、九州はもちろん北海道・東北や海外拠点からの参加もあり、より広範囲のエリアからのアクセスとなった（参加者約170人）。

同勉強会では、秋以降、海外広報、DX、高



パネルディスカッションの4名の登壇者

（左上から時計周りに、崇城大学今野氏、日本文理大学吉村氏、別府大学石川氏、福岡工業大学山口氏）